



## 園児たちに拍手盛ん

普代児童館（野崎貞信館長、園児78人）の生活発表会が11月25日、同館のホールで行われました。

この日のために練習してきた園児たちは、ときどき照れながらも、ステージ狭しと一生懸命歌ったり、踊ったり。（写真）ホールを埋め尽くしたおじいちゃん

やおばあちゃん、お父さんお母さん方約100人は、元気いっぱいの園児たちの演技に盛んに拍手を送っていました。沢向の谷地喜恵子さん(62)は孫の演技する姿を見て「めんこくて、上手で、涙が出ます…」と感激していました。この日、園児たちは12演目のダンスや劇を披露しました。



## あつた チヨウの卵

## 難しかったそば作り

「地球村普代っ子学園」（村教委主催）のそば打ち体験は11月5日、村自然休養村管理センターで行われ、児童が村老人クラブ（野崎幸太郎会長）のお年寄りたちからそばの作り方を学びました。

同体験には村内4小学校の児童28人が参加。おじいちゃん、おばあちゃんから手ほどきを受けながら、慣れない手つきでそばをこねたり、切ったり。（写真）普代小6年の黒畑美沙妃さんは「そばを切るのは初めてだったけど『うまいね』と言われてうれしかったです」と話していました。最後は、太さや長さが違う手作りそばをみんなで試食しました。



普代小学校（村上悦夫校長、児童102人）の3年生19人（下写真）と鳥茂渡小学校（荒谷栄子校長、児童10人）の全校児童10人（上写真）などは11月17日、村天然記念物チヨウセンアカシジミの卵の調査をしました。

普代小が上普代を、鳥茂渡小が金子英雄さん宅（芦生）の裏庭を調査。児童たちはデワノトネリコの木をじっくり観察し白い1ミリの卵を見付けると熱心に数をノートにメモしました。この日は両校合わせて6013個の卵を確認しました。